

各駅が続々と完成! 沿線まちづくりも進行中

12月6日の開業に向けて、駅舎の整備が進んでいます。東西線開業をまちづくりを生かそうと取り組んでいる八木山地区取材しました。



①パークアンドライド駐車場屋上の多目的広場。晴れた日は遠く太平洋まで見渡せます

②斎藤会長（右）と八木さん



③バスプールの歩道に描かれた動物。八木山地区まちづくり研究会のアイデアです



6月28日、地下鉄東西線八木山動物公園駅で、地域住民の皆さんを対象にした駅舎見学会が開催されました。完成した駅舎は八木山動物公園にちなみ、各所に動物のイラストや写真を配置するなど、特徴的な造りになっています。

この駅の周辺でまちづくりに熱心に取り組んでいるのが、「八木山地区まちづくり研究会」の皆さんです。この研究会は、地域の町内会や大学、企業などが集まり、平成17年に発足。現在、約50人のメンバーで、八木山地区のまちづくりについて検討しています。「地下鉄東西線の整備をきっかけに、自分たちが暮らす八木山の魅力をもっと発信し、地域を活性化したい」という思いから研究会を立ち上げました」と教えてくれるのは、会長の斎藤満男さん。「八木山には、動物公園や遊園地、自然など、八木山ならではの資源が凝縮しています。これらを生かし、魅力あるまちにしていきたいですね」と

話します。



壁には動物たちの写真を掲示。天井にはシジュウカラガンが描かれています

駅前の整備には、この研究会のアイデアも採用されています。駅に併設されたパークアンドライド駐車場屋上の多目的広場に敷かれた芝生やウッドデッキの形状は、研究会の話し合いから生まれたもの。現在、利用者の待ち合わせスポットになるように、駅前広場に設置する時計塔も検討しているそうです。「今後は、この空間を生かしたイベントなどを開催し、街にぎわいを創り出していきたいです」と話すのは、駅前地区の新たな顔づくりについて話し合うA部会推進委員長の八木充幸さんです。「東西線開業を契機に、八木山地区の資源を結集し、若い世代の人たちが集まる活気あふれる街にしたいければ」と期待を込めて話してくれました。